

◆技術改良試験（重点普及課題）

オキナワモズク中層浮き流し実証試験（本島地区）

水産業改良普及センター 與那嶺盛次

1. 目的

現在のモズク養殖は、主にヒビ建て式養殖である。ヒビ建て式養殖は、悪天候時の日照不足により生育不良に陥ることがある。その点、中層浮き流し養殖は、水深を調整することによって照度調整を行うことができる可能性がある。また、地域によっては漁場が足りないところもあり、水深の深い漁場も利用できることから本張り漁場の拡大が図れる。そのため、昨年度に引き続き中層浮き流し実証試験を実施した。

2. 材料及び方法

久米島地区：試験は、久米島町東奥武オーハ地先（水深約7m）で、久米島漁協モズク養殖部会と行った。平成21年3月17日に育苗した網を中層浮き流し（イバラノリ式）20枚、中層浮き流し（ノリ式）20枚、対象区としてヒビ建て式養殖20枚の本張りを行い試験を開始した。平成22年5月24日にイバラノリ式とノリ式、ヒビ建て式養殖を収穫し、収穫量と藻体の長さ、太さを測定して比較した。

藻体の長さ（根元より1cmの場所）は、各試験区3サンプルを一旦冷凍し、解凍後養殖網5cm幅に生育している藻体を測定した。

伊平屋地区：試験は、伊平屋村野甫島地先（水深約13m）で、伊平屋村漁協モズク生産部会と行った。平成22年3月30日にイバラノリ式の枠ロープを水面から7mの水深に設置した。育苗していた網を本張りに移す予定であったが、芽出しせず試験を実施することができなかった。

3. 結果

久米島地区：各試験区の収穫量を表1に、藻体の長さ（根元より1cmの場所）と太さを表2に示した。藻体の長さ

と太さは切れていない正常な藻体の測定値を示した。久米島地区の網1枚当たりの収穫量は、イバラノリ式43.9kg、ノリ式45.5kg、ヒビ建て式21.0kgであった。イバラノリ式とノリ式が多かったが、収穫量はとしては少ない方であった。魚類によると思われる食害が観察された。藻体の長さは、昨年度より各試験区とも長かった。藻体の太さは昨年度と同様細かった。

4. 考察

昨年度は、生育している藻体数が多くなったために、各試験区とも藻体が10cm前後で伸び悩み、収穫量が少なくなったと考えられる。

今年度は、1月より天気が悪く日照不足により、ヒビ建て式の収穫量が少なかったと思われる。平成19年度も1月中旬から2月いっぱい天気が悪く日照不足の状態で、ヒビ建て式よりイバラノリ式とノリ式が多かった。

このことから、天気が悪く日照不足の傾向がある場合は、中層浮き流し（イバラノリ式、ノリ式）は有効と考えられる。

表1 久米島地区の各試験区収穫量 (kg)

試験区	収穫網枚数	収穫量	網1枚当たりの収穫量
イバラノリ式	20枚	877kg	43.9kg/枚
ノリ式	20枚	910kg	45.5kg/枚
ヒビ建て式	20枚	420kg	21.0kg/枚

表2 久米島地区の藻体の長さとかさ

試験区	藻体の長さ (cm)		藻体のかさ (mm)	
イバラノリ式	最大	24.9	最大	2.3
	最小	7.9	最小	1.1
	平均	16.8	平均	1.6
	サンプル数	21	サンプル数	21
ノリ式	最大	29.2	最大	2.3
	最小	6.2	最小	1.3
	平均	19.0	平均	1.4
	サンプル数	17	サンプル数	17
ヒビ建て式	最大	36.7	最大	1.9
	最小	8.9	最小	1.4
	平均	19.6	平均	1.6
	サンプル数	13	サンプル数	13



①育苗場からの試験網の移動



②ヒビ建て式の本張り



③中層浮き流し(ノリ式)の本張り



④中層浮き流し(イバラノリ式)の本張り



⑤中層浮き流し(イバラノリ式)の収穫



⑥中層浮き流し(ノリ式)の収穫



⑦ヒビ建て式養殖の収穫



⑧ヒビ建て式養殖の収穫 (船上)